



## 太田・ラナ氏多目的核分割ディバイダー



6-090-7



P5300



P5300は、6-090-8に型番が変更となりました

6-090-7 太田・ラナ氏多目的核分割ディバイダー 1.75mm

P5300 太田・ラナ氏多目的核分割ディバイダー 1.42mm



各 ¥ 42,000

太田・ラナ氏多目的核分割ディバイダー(Jチョッパー)は、核分割だけでなく核の回転や小瞳孔時の虹彩の操作など、白内障手術における様々な用途で使用することを目的として開発されました。先端の2本の突起により、核の硬度にかかわらず核への刺入が容易で、フェイコチョップ法やDivide and Conquer法のいずれの手技にも対応した核分割が行えます。

❖ 先端部の2本の突起

突起は滑らかにテーパ加工され、核への刺入が容易です。核への引っかかりも良く固定や回転などの操作がスムーズに行えます。

❖ 両サイドの凹み

落屑症候群(PE)や術中虹彩緊張低下症候群(IFIS)などの散瞳不良例に対し、プッシュ&プルフックの代わりに使用することができます。また、眼内レンズ支持部を嚢内に挿入する際に、フックとして使用することができます。

## 太田・藤本氏コンプリートCCCマーカ



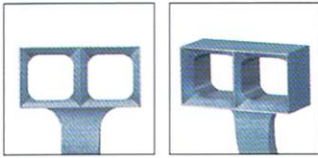
9-518-3 太田・藤本氏コンプリートCCCマーカ 5.6mm センターピン付 ¥ 48,000

角膜上にマーキングしてCCCを行う際の目安とします。偏心のリスクを軽減するためのセンターピンが設けられています。



**太田氏L-ポケット切開法とは**

偏位・落下IOL摘出時に、6mmPMMAシングルピースIOLを強膜3mm切開で摘出可能とする新しい切開法です。輪部に3mm×3mmのL字の強膜半層切開を行い、クレセントナイフを用いて幅6mmの強膜ポケットを作製した後、スリットナイフを用いて前房内へ入り、L字の強膜創口からIOLを眼外へ摘出します。フォーダブルIOLも眼内でIOLを切断する必要がなく、術後惹起乱視は従来の強膜3mm切開と同等です。



9-847 太田氏L-ポケット切開用マーカ―

¥ 88,000



2-796 DK核・IOL摘出鉗子

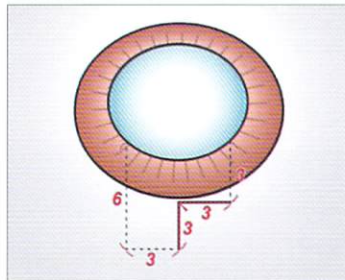
¥ 52,000

鉗状に加工されたチップが、小さな核片やIOLをしっかりと把持します。

**手術手順**

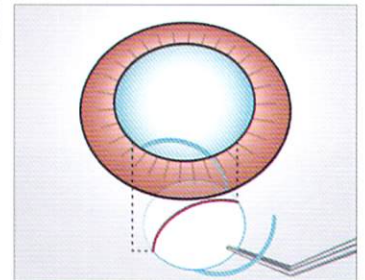
**1. マーキングと切開**

- L-ポケットマーカ―を用いて強膜上にマーキングを行います。
- マーキングに沿って3mm×3mmのL字の強膜半層切開を行い、クレセントナイフを用いて幅6mmの強膜ポケットを作製した後、スリットナイフを用いて前房内に刺入します。



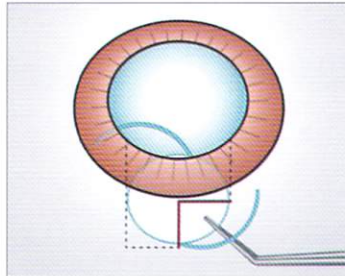
**3. IOLの摘出**

- L字の強膜創口よりIOLを摘出します。
- 強膜の弾性により、6mmPMMAシングルピースIOL、アクリルやシリコン素材のフォーダブルIOLをそのまま摘出することができます。眼内で切断する必要はありません。
- Soemmering's ringや残留皮質、CTRの摘出も容易で、囊ごと一塊で摘出可能です。



**2. IOLの把持**

- IOL摘出鉗子を用いてIOLを把持します。



**4. 縫合**

- 8-0バイクリル糸で交差部を縫合します。
- 強膜ポケットの左半分は術後乱視変化に関与しないため、術後惹起乱視は従来の3mm強膜切開と同等です。

